

# 夜と霧の隅で

北杜夫

文学横浜の会 読書会

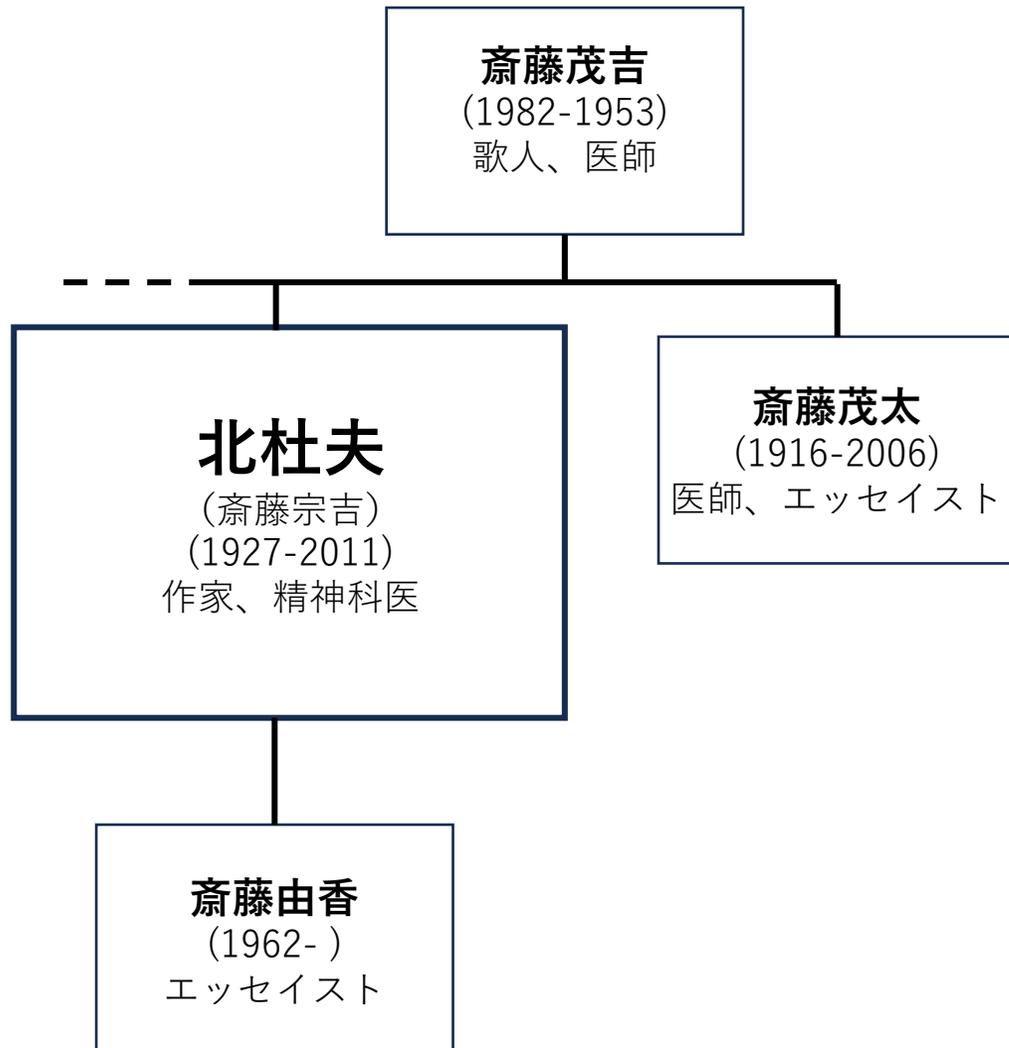
二〇二三年十二月二日

野守水矢 (中川正広)

# - 目次 -

- I. 『北杜夫』ってどんな人？
- II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？
  - I. 病院のおかれた状況（不治患者移送の通告以前）
  - II. 登場人物（医師）（不治患者移送の通告以前）
  - III. 登場人物（日本人）
  - IV. 登場人物の相関図（不治患者移送の通告以前）
  - V. 不治患者移送（安死）の通告
  - VI. 医師たちの行動（不治患者移送の通告以後）
  - VII. 不治患者の移送
- III. 質問に寄せられた回答と感想

# 1. 『北杜夫』 ってどんな人？



純文学 夜と霧の隅で(1960) 芥川賞  
楡家の人びと(1962-64) 毎日出版文化賞  
エッセイ どくとるまんぼう航海記(1960)など  
ユーモア中間小説 高みの見物(1965)など  
児童文学 船乗りクプクプの冒険(1962)など

## II. 『夜と霧の隅で』 ってどんな作品？



9784101131016



1920193005905

ISBN978-4-10-113101-6

C0193 ¥590E

定価：本体590円(税別)

不治と見なされた精神病者に、安死術を施すことを決定したナチス。第二次世界大戦中、その指令に抵抗する精神科医たちは、不治の宣告から患者を救おうとあらゆる治療を試み、ついに絶望的な脳手術まで行う。彼らの苦悩苦闘を描き、極限状況での人間の不安、矛盾を追及した芥川賞受賞の表題作。他

に『岩尾根にて』『羽蟻のいる丘』等、透明な論理と香気を帯びた抒情が美しく融合した初期作品、全5編。

- 第二次世界大戦中のドイツ、戦況は危機的
- 南独の一州立精神病院
- ナチスが「不治患者を（安死のために）移送する」と通告。
- 患者を救おうとして、医師が奮闘。
- 患者は移送され、医師の努力は報われなかった。



## II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

### I. 病院のおかれた状況（不治患者移送の通告以前）

- 1943年 **戦況は危機的**
- 2月、スターリングラードでドイツの惨敗を公表した。
- ドイツ国民に衝撃以上のものだった。
- 老人、少年までもが戦線に出たが、戦局は悪化の一途だった。
- 9月、イタリアの裏切り。東からソ連軍が押し寄せ、米英軍の激しい空爆にさらされた。
- 市民の間には、密かにナチスへの疑念が広がっていた。

しかし、

- 病院には戦局の余波は意外なほど及んでいなかった。
  - 世間から孤立した特殊病院の生活が続いていた。
  - 医師も看護人も減った。
  - 車で一時間ばかりの都市は数回の空襲を受けている。
  - 食料事情も悪くなった。
- それでもここには本質的な変化がなかった。

## II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

### II. 登場人物（医師）（不治患者移送の通告以前）

登場人物	役割	どんな人
エーバーハルト・ツェラー	院長、教授	「医者とはただ、癒すためにいる」が持論。
ヴァルター・フォン・ハラス	医長	安死術の噂は信じていない。
カール・ケルセンブロック	医師	死亡患者の脳を用いて標本作りに没頭。診療は義務的。ただし、重症患者には敬虔。
ツェードリック・ラードルフ	医師	断種、安死術は理性的で道徳的、宗教的だと発言。
ヴァイゼ	医師	（安死術にも）合法的な断種にも反対。
エルンスト・ゼッツラー	医師 （最近まで医学生）	ロシア戦線で悲惨な経験をして無気力になっている。

## II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

### III. 登場人物（日本人）

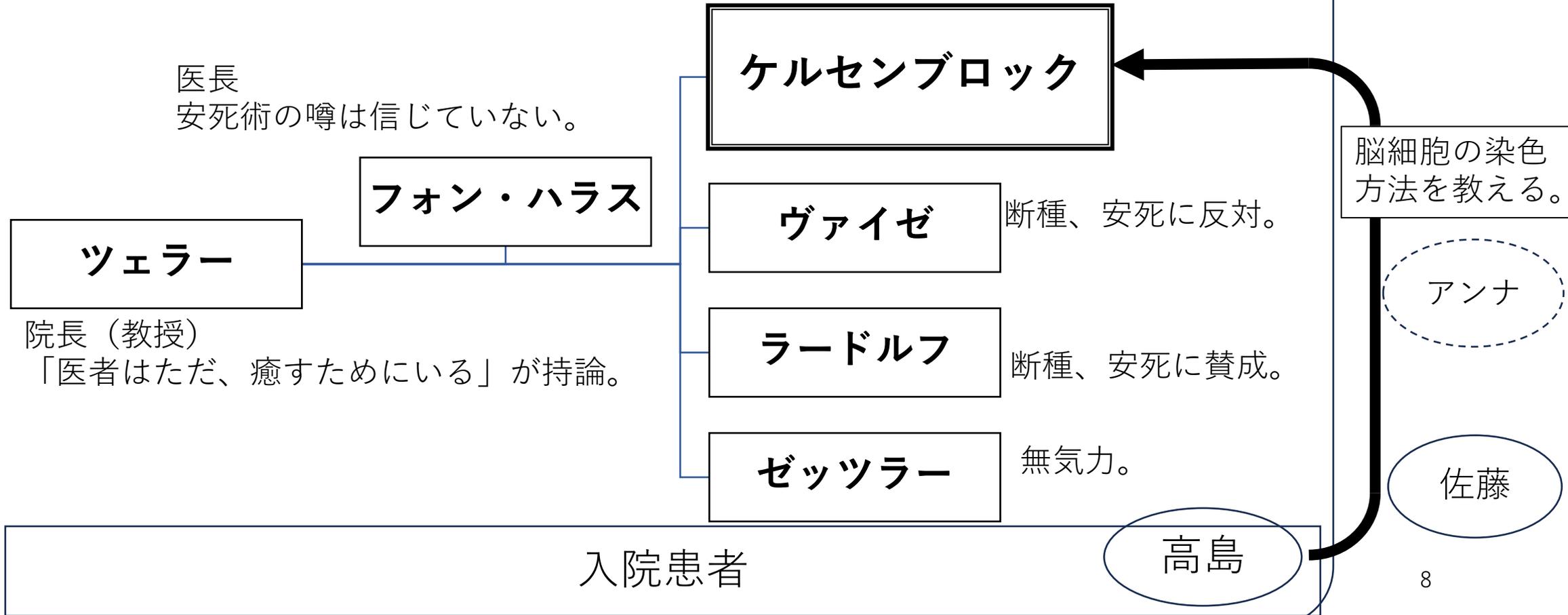
登場人物	役割	どんな人
高 島	日本人留学生、患者	妻・アンナ（ユダヤ人）の助命に奔走して発病、入院。 アンナ（妻）が心配で不安。早く退院したい。 脳細胞の染色方法をケルセンブロックに教える。 ケルセンブロックの新療法を受けて回復したが、自殺。
佐 藤	高島の同窓	実際の戦況を高島に伝える。 高島に、アンナの自殺を伝える。

## II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

### IV. 登場人物の相関図（不治患者移送の通告以前）

何事も起こらない平凡な日常が続く。

患者の新鮮な脳細胞を用いて標本作りに没頭。治療は義務的。



II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？  
II. 不治患者移送（安死）の通告

親衛隊が不治患者の選別と移送を通告。

登場人物	通告を受けた医師たちの反応
エーバーハルト・ツェラー	親衛隊の通告を聞いて絶望し、脳出血で倒れた。
ヴァルター・フォン・ハラス	非戦闘員を解除され、病院を去る。
カール・ケルセンブロック	院長代理。重症患者への敬虔の念が表に出た。
ツェードリック・ラードルフ	衝撃を受けた。
ヴァイゼ	衝撃を受け、ヒステリックに笑った。
エルンスト・ゼッツラー	混乱した。ナチス抵抗運動への共感と現実の間の葛藤をフォン・ハラスに告白したが、フォン・ハラスは病院を去った。

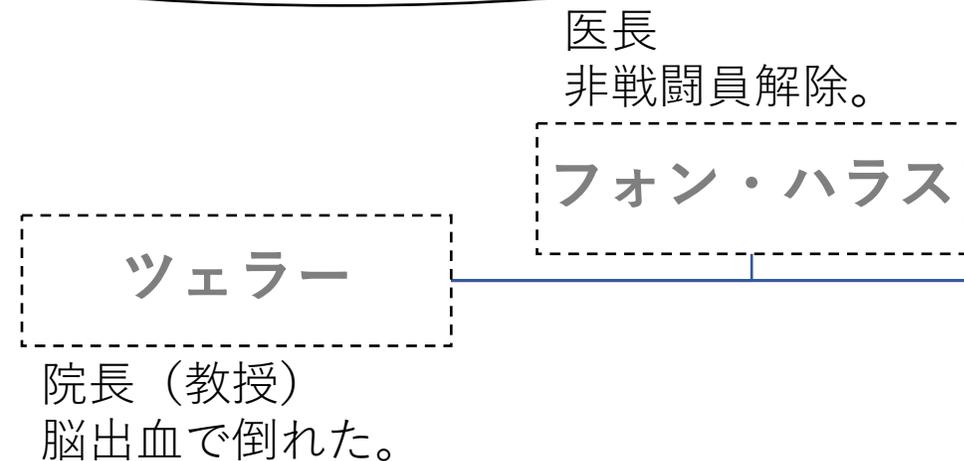
## II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

### II. 通告を受けた医師たちの行動

統率者が不在の病院で、残された4人の医師は独自の判断で行動する。  
『なんとかして患者を救いたい』との思いは共通。

不治患者を治療する！  
これ以上不治患者を出さない！

院長代理 患者に尋常でない治療方法を施す。



ケルセンブロック

ヴァイゼ

精力的に不治患者に寄り添う。

ラードルフ

患者を、不治にならないよう、作業療法に駆り出す。

ゼッツラー

酒とモルヒネで気持ちいを紛らわす。

高島は新療法を契機に回復。

アンナ

佐藤

不治患者

入院患者

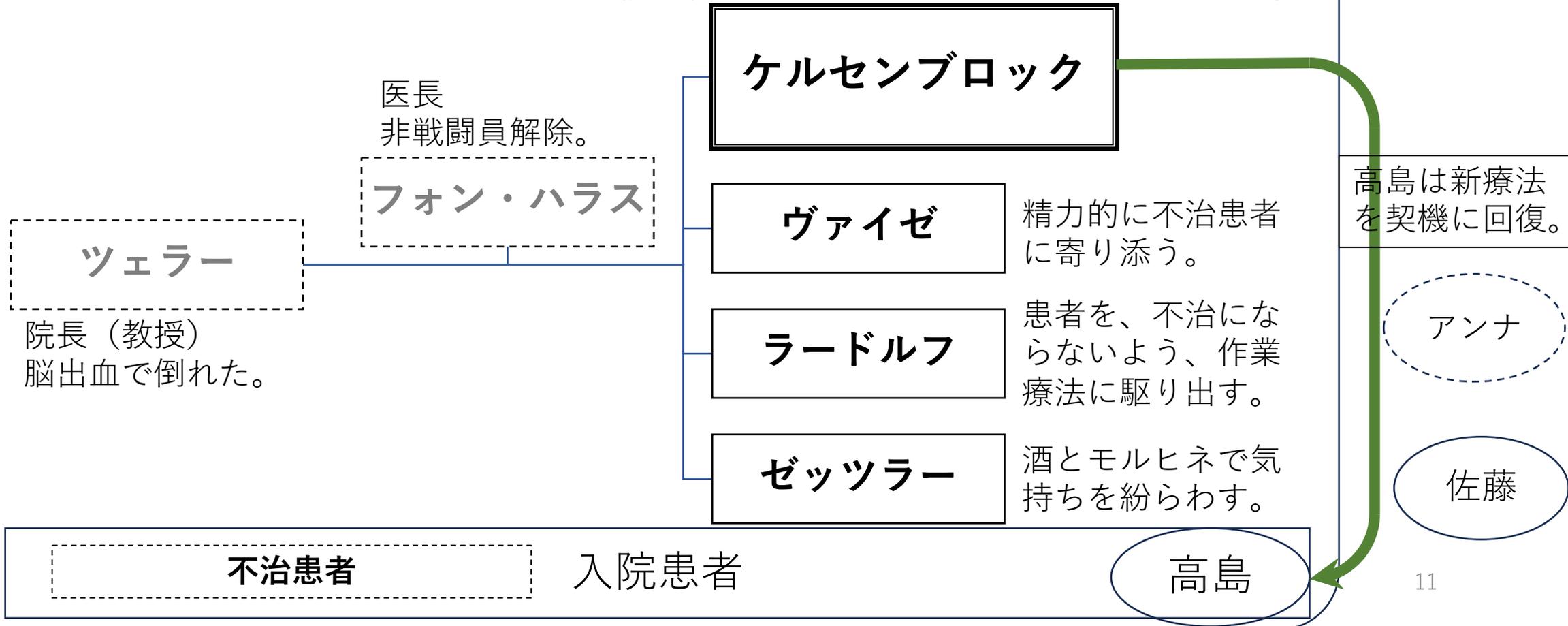
高島

# II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

## II. 通告を受けた医師たちの行動

統率者が不在の病院で、残された4人の医師は独自の判断で行動する。  
『なんとかして患者を救いたい』との思いは共通。

院長代理 患者に尋常でない治療方法を施す。



II. 『夜と霧の隅で』ってどんな作品？

III. 不治患者の移送

## 不治患者が移送される。

- 不治患者がトラックに乗せられる。
- ケルセンブロックは自責を感じて、くよくよしている（ラードルフの言葉から）。
- ラードルフはケルセンブロックを慰め、勇ましい言葉を吐いたが、「今夜は飲む」。
- ヴァイゼとゼッツラーは帰宅して不在。
- ツェラー院長は、すでに患者に惜しまれて去っており、不在。

### III. 質問に寄せられた回答と感想

Q1: あなたがこの病院の医師なら、誰に近い行動をしますか。

Q2: ケルセンブロックの行動を肯定しますか、肯定しませんか。

Q3: 読書が好きな人として『読み手』の立場で感想、批評などがあれば、書いてください。

Q4: 文横などで発表する人として『書き手』としての立場で感想、批評などがあれば、書いてください。

# Q1: あなたがこの病院の医師なら、誰に近い行動をしますか。

登場人物	行動	回答
カール・ケルセンブロック	不治患者に尋常でない治療を施した。	● 自分なりに考え、行動している。
ツェードリック・ラードルフ	放置すると重症になる患者を作業療法に駆り出した。 後に、ケルセンブロックの手伝いもした。	● 時代の価値観に押し流されていただろう。
ヴァイゼ	不治患者のリストに載せられた者につきっきりで寄り添った。	● 患者の心に寄り添うのが医師である。
エルンスト・ゼッツラー	ラードルフを支持・協力。 酒とモルヒネで心の葛藤を紛らした。	● 恐怖から黙認を選択しそう。 消極的に現実を容認して自己弁護の理屈をこしらえる。

## Q2: ケルセンブロックの行動を肯定しますか、肯定しませんか。

<p><b>肯定する</b></p> <p>● ●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傍観者的な立場を離れて現実と切り結んだことは評価したい。（患者を苦しめたただだから肯定すべきではないだろうが）</li> <li>・積極的な態度は評価できる。（ホロコーストの賛否とは別に）</li> </ul>
<p><b>肯定しない</b></p> <p>● ●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者は医師のための実験材料ではない。（葛藤する医師の一面を見るよう）</li> <li>・勝算の低い人体実験に近いことをしている。（安死術を避けるためなので、評価は難しい）</li> </ul>

登場人物	態度
ラードルフ	<p><b>肯定しない</b></p> <p>「妖術」「魔法」。</p>
ヴァイゼ	<p><b>肯定しない</b></p> <p>「あまりにも危険」 非難の目を向けた。</p>
ゼッツラー	<p><b>肯定しない</b></p> <p>一人二人僥倖で救っても、虚しい。早く誤った戦争を終わらせるしかない。</p>

肯定する医師はいない。手伝う医師はいたが、阻止した医師はいなかった。

Q3: 読書が好きな人として『読み手』の立場で感想、批評などがあれば、書いてください。

・読みやすい文章。怖さを感じる。気負いのない文章。ユーモア。重いテーマ。読んでいてしんどい。日本人の登場に違和感。

Q4: 文横などで発表する人として『書き手』としての立場で感想、批評などがあれば、書いてください。

・書き手として冷静。メッセージ性。文章力。日本人の登場に親近感。  
困難な倫理上の問題を提示。読者に四人の医師の態度を判断させる（客観的、公平）

# ★:サブプロット 高島の物語

日本人を登場させることで、「**遠い国の昔話**」ではないという**親近感**を抱かせている。

また、ドイツをめぐる客観的な国際情勢を自然に語る役回りも演じさせている。

日本人を登場させたのはどうだろう、**身近な物語と感じるより、むしろ違和感**がある。

文化の異なる中で生きた人間同士の愛に揺れるユダヤ人・アンナを妻にした患者・高島の物語り。

- ・高島が発症したきっかけは？
- ・高島はなぜ自殺したのか？
- ・アンナはなぜ自殺したのか？
- ・アンナは高島を愛していたのか？

# ★:感想いろいろ

- ・ 人間とはなにか、人権とはなにかを問う作品
- ・ 「作り物」という感じがどうしても拭えない。
- ・ AIに小説を作らせたら、この書にあるような一連の作品ができあがるのではないだろうか。
- ・ 「異常な日常」における人の心理について、深く洞察している。
- ・ 読んでいる間中、遠藤周作さんの『海と毒薬』が明滅していました。

示唆に富む感想をたくさんいただき、  
ありがとうございました。

# ★:おまけ

